

# 2017年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社ミスホメディー(証券コード4595)

2017年8月10日

- I 会社概要**
- II 事業概要**
- III 2017年12月期 第2四半期決算実績と  
2017年12月期 通期業績予想**
- IV 今後の成長戦略**

# I 会社概要

# 会社概要



商号	株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
設立	1977年11月2日
本社所在地	佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4
代表者	代表取締役会長兼社長 唐川文成
従業員数	149名（2017年6月30日現在）
事業内容	診断薬事業…病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売 OTC事業…OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
主要取引先	株式会社メディセオ、東邦薬品株式会社、アルフレッサ株式会社 株式会社バイタルネット、株式会社スズケン、富士フィルム株式会社 他
営業拠点	本社、東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、その他各地駐在
開発拠点	佐賀県鳥栖市 本社工場

※OTC（Over The Counter）： 医師の処方箋がなくても購入できる医薬品  
薬局、薬店、ドラッグストアなどでカウンター越しに販売することに由来した名称

## Ⅱ 事業概要



病院・開業医分野

免疫血清  
POCT

生化学

申請中  
遺伝子  
POCT



OTC・その他分野

OTC

農業



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査





## ① POCT製品

### クイック チェイサー シリーズ

大病院からクリニックまで、様々なお客様のニーズに応えるPOCT製品シリーズ

#### インフルエンザウイルス



#### アデノウイルス



#### RSウイルス



#### StrepA(A群β溶連菌)



#### ノロウイルス



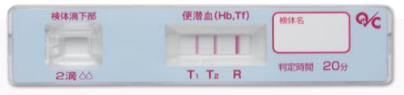
#### ロタ/アデノ



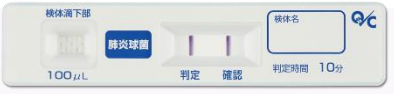
#### HBV(B型肝炎)



#### 便潜血



#### 【新製品】肺炎球菌



#### 【新製品】RSV/hMPV



#### 【新製品】hMPV



#### 【新製品】マイコプラズマ



## ② POCT機器試薬システム



### ➤ 高感度迅速診断システム（富士フイルム(株)との共同開発）

- ◎ 当社メンブレン技術と富士フイルム株式会社の機器製造ノウハウを融合して実現
- ◎ インフルエンザウイルス、マイコプラズマ、RSV/Adeno同時検出  
アデノウイルス、Strep A(A群β溶連菌)をラインナップ

デンシトメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader



クイックチェイサー® Autoシリーズ

Flu A,B



Myco



RSV/Adeno



Adeno



Strep A



#### 製品の特長

1. 早期診断が可能  
(発症初期の診断精度向上)
2. 装置による結果判定  
(判定結果はモニター表示とプリントアウト)



# OTC・その他分野の主な製品

## OTC(薬局・薬店)向け製品



### ▶ 妊娠検査薬 ・ 排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

#### 【妊娠検査薬】



#### 【排卵日検査薬】



※妊娠検査薬は早期に展開しシェアトップ

◎ 武田コンシューマーヘルスケア(株)販売のハイテスターシリーズ

#### 【妊娠検査薬】



#### 【排卵日検査薬】



**Ⅲ 2017年12月期 第2四半期決算実績と  
2017年12月期 通期業績予想**



## ➤ 業績ハイライト

- ✓売上高 2,529百万円（前年同期比 17.5%増、予想比 1.0%減）
- ✓営業利益 299百万円（前年同期比 113.6%増、予想比 48.2%増）
- ✓経常利益 300百万円（前年同期比 112.8%増、予想比 48.4%増）
- ✓四半期純利益 221百万円（前年同期比 125.0%増、予想比 41.6%増）

## ➤ ポイント

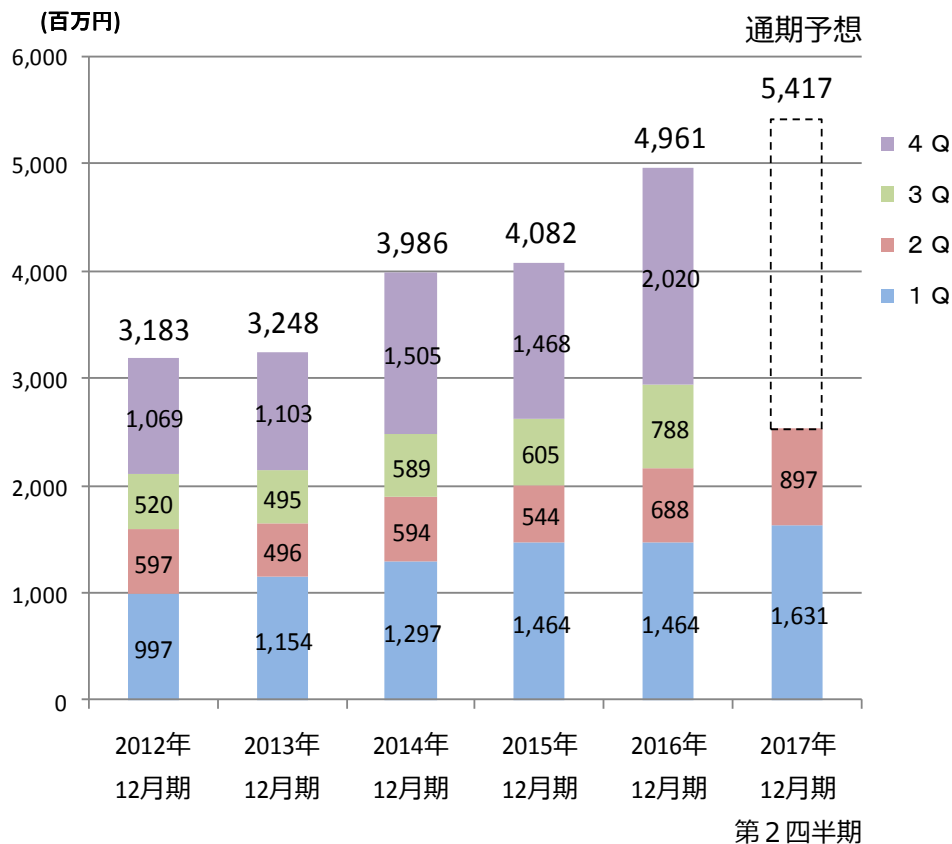
- ✓前年同期比では、大幅な増収増益
- ✓予想比では、売上高は概ね計画どおりに推移、各利益は販管費一部の下期へのずれ込み等により、予想を上回る
- ✓通期業績予想は変更なし

# 2017年第2四半期決算実績 業績の推移(売上高、経常利益)

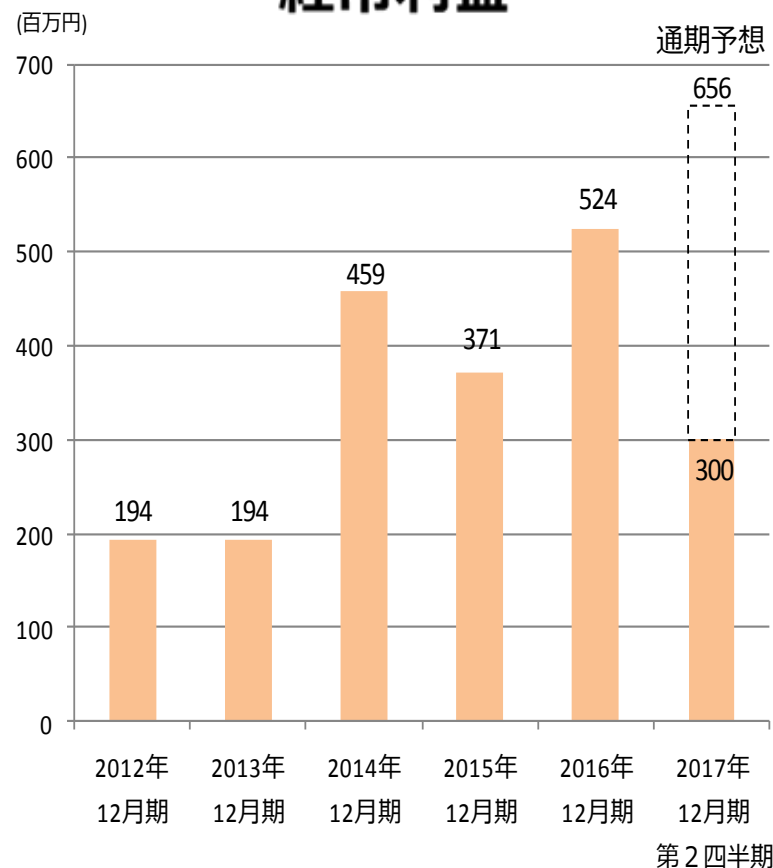


- 増収・増益基調 継続
- 売上高・経常利益は、第1・第4四半期（インフルエンザ流行期）に集中

## 売上高



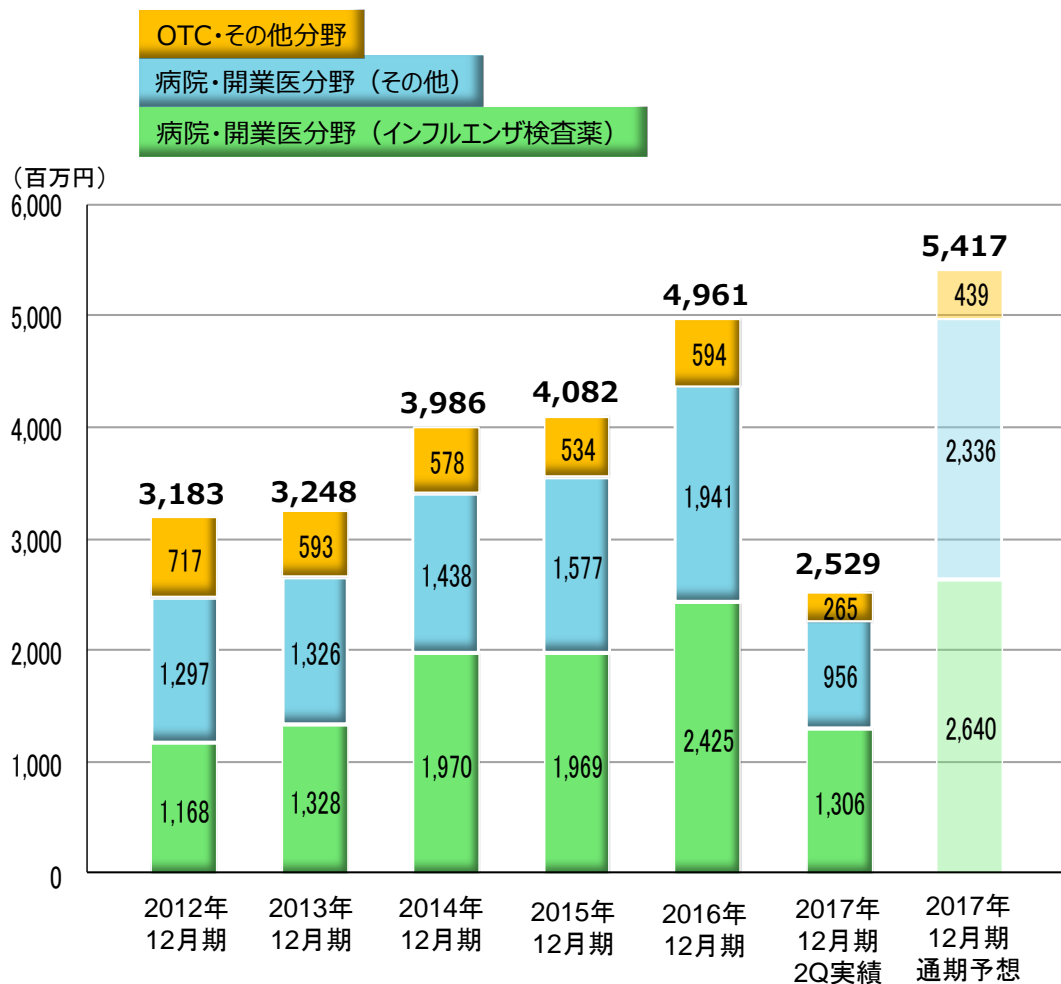
## 経常利益



# 2017年第2四半期決算実績 市場分野別の売上高推移



## 市場分野別の売上高



## 2017年第2四半期累計実績

### ■ 病院・開業医分野 (2,263百万円 19.5%増)

◇インフルエンザ検査薬 (1,306百万円 18.8%増)  
 ・イムリーダーの累計販売台数の増加に伴い、試薬の出荷数も伸長し、大幅増収

◇その他 (956百万円 20.5%増)  
 ・その他感染症POCT検査薬は、堅調に推移  
 アデノウイルス、ロタ/アデノウイルス、  
 ノロウイルス、ストレプトA検査薬など

・前事業年度の新製品も売上に貢献  
 マイコプラズマ、RSV/ヒトメタニューモウイルス、  
 肺炎球菌検査薬など

### ■ OTC・その他分野 (265百万円 2.5%増)

・自社ブランド及びプライベートブランドの妊娠検査薬及び  
 排卵日検査薬は、価格競争のなか伸び悩む

・武田コンシューマーヘルケア向けの排卵日検査薬  
 (ハイテスターH) の出荷数が増加

# 2017年第2四半期決算実績

## 損益計算書 P/L(前年同期比、予想比)



- 売上高 2,529百万円 (前年同期比 17.5%増、予想比 1.0%減)
- 経常利益 300百万円 (前年同期比 112.8%増、予想比 48.4%増)

- ✓前年同期比では、売上高の堅調な伸びに牽引され、大幅な増収増益
- ✓予想比では、売上高は、僅かに未達(△1.0%)も概ね計画どおりに推移  
各利益は、販管費一部の下期へのずれ込み等により、予想を上回る

(百万円)

	2016年12月期		2017年12月期							
	2Q累計実績		2Q累計予想		2Q累計実績		前年同期比		予想比	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	2,153	100.0	2,554	100.0	<b>2,529</b>	100.0	375	<b>17.5</b>	△24	△ <b>1.0</b>
差引売上 総利益	1,463	68.0	1,681	65.8	1,665	65.9	202	13.8	△15	△0.9
販売費及び 一般管理費	1,322	61.4	1,478	57.9	1,365	54.0	43	3.3	△113	△7.7
営業利益	140	6.5	202	7.9	<b>299</b>	11.9	159	<b>113.6</b>	97	<b>48.2</b>
経常利益	141	6.6	202	7.9	<b>300</b>	11.9	159	<b>112.8</b>	98	<b>48.4</b>
四半期 純利益	98	4.6	156	6.1	<b>221</b>	8.8	123	<b>125.0</b>	65	<b>41.6</b>



# 2017年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (資産)



## □ 当社第2四半期 B/S の特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が第2四半期会計期間に集中するため、売上債権の減少に伴い、現預金は増加し、短期借入金は返済により減少
- これにより第2四半期末の資産及び負債は、期末に比べ減少する傾向あり

(百万円)

	2016年 12月末	2017年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	2,917	2,374	△542	
現金及び預金	75	704	629	・売上債権の回収に伴う増加
売上債権	2,033	825	△1,207	・主にインフルエンザ検査薬の 売上債権の回収に伴い減少
たな卸資産	746	818	71	
その他流動資産	61	25	△35	
固定資産	1,124	1,146	21	
有形固定資産	923	943	19	
無形固定資産	5	6	0	
投資その他の資産	195	196	1	
資産合計	4,041	3,521	△520	

# 2017年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (負債・純資産)



(百万円)

	2016年 12月末	2017年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動負債	1,329	728	△600	
仕入債務	341	312	△28	
短期借入金	459	81	△378	・売上債権回収に伴う返済による減少(81は1年内長期借入)
その他流動負債	528	334	△193	・未払消費税等の減少△73 ・未払法人税等の減少△70
固定負債	816	793	△22	
長期借入金	184	143	△40	
その他固定負債	632	649	17	
負債合計	2,145	1,521	△623	
株主資本	1,896	1,998	102	
資本金	464	464	－	
資本剰余金	274	274	－	
利益剰余金	1,157	1,260	102	・2016年12月期配当金△119 ・四半期純利益221
純資産合計	1,896	1,999	102	
負債純資産合計	4,041	3,521	△520	

# 2017年第2四半期決算実績 キャッシュ・フロー計算書 C/F



## □ 当社第2四半期 C/Fの特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が第2四半期会計期間に集中するため、第2四半期は通期に比べ、
  - ⇒ 売上債権の減少により、「営業活動によるキャッシュ・フロー」が増加する
  - ⇒ 短期借入金の返済により、「財務活動によるキャッシュ・フロー」が減少する

(百万円)

	2016年2Q (1月～6月)	2016年通期 (1月～12月)	2017年2Q (1月～6月)	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	681	187	1,210	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上債権の減少 (+1,207)</li> <li>・税引前四半期純利益 (+300)</li> <li>・たな卸資産の増加 (△71)</li> <li>・未払費用の減少 (△63)</li> </ul>
投資活動による キャッシュ・フロー	△36	△86	△42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得 (△40)</li> </ul>
財務活動による キャッシュ・フロー	△402	△66	△538	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期借入金の純減 (△378)</li> <li>・配当金の支払 (△118)</li> <li>・長期借入金の返済 (△40)</li> </ul>
現金及び現金同等物 の増減額	242	34	629	
現金及び現金同等物 の期首残高	41	41	75	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	284	75	704	

# 2017年12月期 通期業績予想



- 2017年2Q実績 ⇒
  - ・ 売上高は、おおむね計画どおりに推移
  - ・ 利益は、販管費一部の下期ずれ込み等により上振れ
- 通期予想は、当初予想を据え置き（売上高 9.2%増、経常利益 25.2%増）
  - ✓ 病院・開業医分野 – インフルエンザ検査薬をはじめ感染症POCTは、増収基調持続を予想
  - ✓ OTC・その他分野 – ハイテスター（武田CH向け）と当社製品で売上高維持

(百万円)

	2016年12月期		2017年12月期				
	前期実績		2Q累計実績		通期予想		前期比 増減率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	
売上高	4,961	100.0	2,529	100.0	<b>5,417</b>	100.0	<b>9.2</b>
売上総利益	3,190	64.3	1,665	65.9	3,483	64.3	9.2
販売費及び 一般管理費	2,661	53.6	1,365	54.0	2,826	52.2	6.2
営業利益	529	10.7	299	11.9	<b>657</b>	12.1	<b>24.1</b>
経常利益	524	10.6	300	11.9	<b>656</b>	12.1	<b>25.2</b>
当期純利益	395	8.0	221	8.8	<b>503</b>	9.3	<b>27.3</b>

# IV 今後の成長戦略

## 技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

新規診断技術の創出

マーケット展開

技術革新 [ウイルス・細菌に特化]

病院開業医分野

OTC・その他分野

### スクリーニング検査技術

#### ① クイックチェイサーシリーズのシェア拡大

- ・対象疾患の拡大
- ・既存製品の改善・改良



・ウイルス分野から  
細菌分野への市場  
創出

#### ◎ 次世代多項目マルチ検査システムの開発

- ・正確性・迅速性への更なるシーズ開発

#### ② スイッチOTCマーケット での業績拡大

- ・スイッチOTC製品の  
先発販売
- ・大手OTC医薬品企業  
との販売提携

### 確定診断技術

#### ③ 遺伝子POCT検査による 確定診断機器・試薬システムの市場展開

- ・呼吸器感染症項目
- ・消化器感染症項目
- ・薬剤耐性菌項目



・感染初期の確定診断  
需要を拡大

#### ◎ 環境・食品検査分野 への応用開発

- ・遺伝子POCT技術を応  
用した環境・食品微生物  
検査への展開

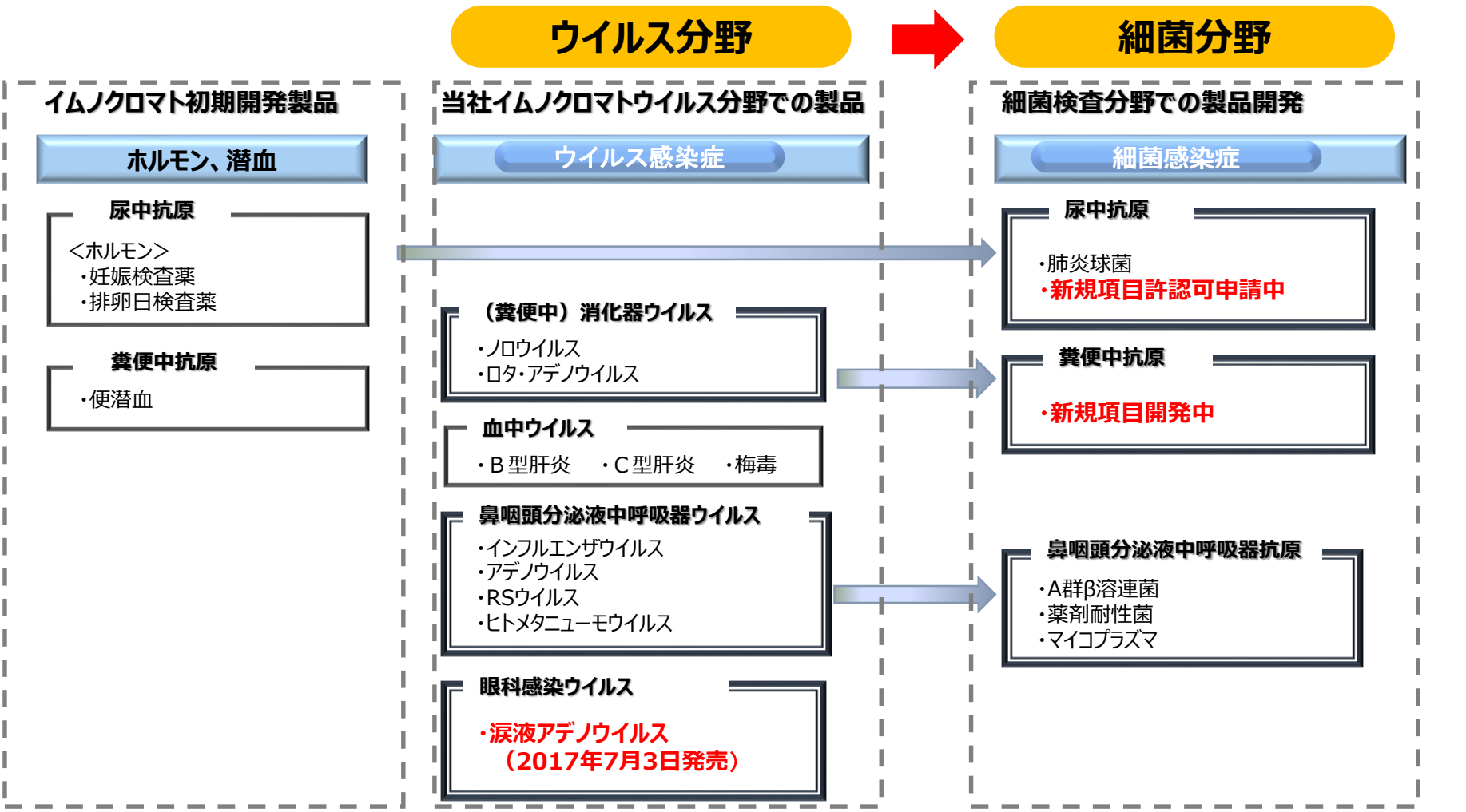
安定的収益と企業成長

自社開発・製造販売一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略





## ➤ ①.クイックチェイサーシリーズの拡大



## ②.スイッチOTCマーケットでの業績拡大

### 政府主導のスイッチOTC化

- 平成25年日本再興戦略方針において、薬局を拠点に地域に密着したセルフメディケーションの推進を提唱
- 政府主導でスイッチOTC化推進
- OTC検査薬の許認可スキームが確立、  
排卵日予測検査薬承認に続き2項目審査中

### 関連プレイヤーの動向

- 大手医薬品メーカーの検査薬市場参入

### 当社のポジション

- OTC検査薬市場の主力製品である妊娠検査薬販売  
国内1位（2015年富士経済調べ）
- 大手OTC医薬品メーカー武田薬品工業と販売提携
- 今後スイッチOTC化が見込まれる項目群を医療用診断薬として既に製造販売

### 当社の取組

- スイッチOTC製品の先発販売  
排卵日予測検査薬承認取得（2016.11.15）  
武田薬品工業より「ハイテスターH」発売  
（2016.12.27）
- 自社ブランド品はPB製品（NID）として市場展開  
「P-チェック・LH クリアリー」発売（2017.7.1）

## ③-1. 遺伝子検査マーケットと将来展望

### 感染症遺伝子検査の現状

- 検査施設** 検査センター、大学病院、機関病院
- 装置** 大型装置、遺伝子抽出、増幅、検出セパレート型の装置
- 検査項目** 感染症多検体処理 (HCV、HBV、HIV、結核菌、クラミジア、淋菌、パピローマ)
- 顧客ニーズ** 遺伝子診断のPOCT化
  - ・装置価格の低減
  - ・簡易な測定操作技術
  - ・結果判定の迅速化

### 技術革新

- ・死亡率の低下
- ・重篤化の低減
- ・院内、家族内感染など水平感染の防止

### 遺伝子検査の拡大

- 検査施設** 一般病院検査室、開業医
- 装置** 一体型機、低コスト化
- 検査項目** 感染症 (呼吸器、消化器感染症全般) 薬剤耐性菌

### マーケット拡大

### 潜在遺伝子検査市場の創出(保険収載)

呼吸器、消化器感染症診断市場を中心に、新たな遺伝子検査項目の保険収載とマーケット拡大

## ➤ ③-2. 遺伝子POCT検査による 確定診断機器・試薬システムの製品化

### 独自開発の新規診断技術

- 独自特許技術とイムノクロマトPOCT試薬にて培った技術により、オールインワン（遺伝子抽出・増幅・検出）試薬による遺伝子POCT検査を実現

- ・メンブレン技術による簡易遺伝子抽出技術
- ・高速かつ正確な遺伝子増幅技術
- ・迅速かつ高精度な遺伝子検出技術

『遺伝子検査の全てを  
1つの試薬と1台の小型装置に集約』

- 1ステップ°
- 短時間
- 安価

※現在、呼吸器感染症項目について承認申請中



### 遺伝子POCT検査の実用化

- わずかな量の原因菌やウイルスを検出でき(高い検出感度を有し)、かつ、POCT検査として(患者に近い医療現場で)用いることができるため、**より早期に確定診断が可能**
- 感染初期の治療・投薬による、死亡率や重篤化の低下が期待される

## IRに関するお問い合わせ先

**株式会社ミズホメディー 総務部**

**電話 : 0942-85-0303**

**e-mail : [ir@mizuho-m.co.jp](mailto:ir@mizuho-m.co.jp)**

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。